
季詞

薄桜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

季詞

【Nコード】

N7149S

【作者名】

薄桜

【あらすじ】

『Smile Japan』企画がきっかけで始めてみようと思いました。

詩篇・・・写真と詩のコラボです。

更新は、

私が魅せられた時。

言葉が出てくる瞬間に出会った時。

そして、ちゃんとした写真が撮れた時。
(ここ重要)です。

卯月の雨後（前書き）

「季節を届けたい」って・・・

言った事は、やっぱり実行しないとね。

撮った写真に詞をつけてみました。

でも実は、見切り発車かもしれません（^^；

卯月の雨後

「散る花」

盛りを過ぎて 風に散り

まだ魅せたいと 身を寄せる

春を告げる役を終え 流れに身を任せても

私はまだ ここにいます

> i 2 2 6 4 5 — 2 4 0 4 <

「黄色い花」

私は何故ここにいるのでしょうか？

仲間から一人はぐれ 知らぬ場所で目が覚めました

そう傍らの木に 尋ねてみました

> i 2 2 6 4 6 — 2 4 0 4 <

「葉の紫陽花」

さあ急げ 葉を広げ 枝を伸ばせ

雨が降る前に 花を咲かせよう

さあもつと 僕らに光を

＞i22633—2404＜

「緋牡丹」

赤い装い 艶やかに

私を見てと 嘲笑う

濡れた雫の 宝石を着て

雨後の光で 魅惑する

＞i22642—2404＜

「待ってます」

楽しそうだなと あるじ主を見守る

楽しそうだねって みんなを眺める

いいな 一緒に遊びたいよ

雨上がりの土の上 僕らはみんなお留守番

> i 2 2 6 4 3 — 2 4 0 4 <

卯月の雨後（後書き）

・・・実は200字以上の制限が曲者。
おかげで5つ連投です。

気長に続けていければいいと思います。

・・・それと、2番目の黄色い花は、何て名前なんでしょう？
分からなかった。

卯月の曇天（前書き）

今日の天気は午後から雨です。

卯月の曇天

「サツキ」

ねえねえ 誰が一番きれい？

鮮やかに咲く 姉妹たち

みな一様に紅を引き 通る者寄せ 問いかける

ほらほら答えて

一番は誰？

> i 2 2 6 4 4 — 2 4 0 4 <

「さあ行こう」

ねえ あれボール？

いこうよう

んーごめんね 行けないな

だって今 あそこら帰ってるんだよ

お母さん荷物重いよ？

ボール ボール いこうよう

ねえねえ あそこにいこうよう

＜i 2 2 7 8 8 — 2 4 0 4 ＜

「あと少し」

もう少し 硬いつぼみに 力を入れて

ゆっくり ゆっくり 曝け出す

内なる紅を ちらつかせ

虜にさせるは あともう少し

＜i 2 2 2 7 9 0 — 2 4 0 4 ＜

「幼い葉」

瑞々しく 幼く青い葉を広げ

雲の向こうの お日様を待つ

けれども 雲は切れ目も見えず

いずれこぼれる 雫に濡れる

> i 2 2 7 8 9 — 2 4 0 4 <

卯月の曇天（後書き）

「さあ行こう」の子供は、うちの一番下です。
「あと少し」のバラの写真は、少し光を加工・・・（^^；

卯月の終わり

「藤」

風に漂う香に 寄せられて
見つけたるは 紫の花
棚から零れる その様に
たわわに実る 秋を思ゆる

＞i 2 3 6 7 8 — 2 4 0 4 <

「ポピー」

潮の風に遊ばれて 振り回される一輪の花
されども強い芯を持ち 決して折れず屈しない
緑の中に 鮮やかに立つ
茜の色の 小さな貴婦人

＞i 2 3 6 7 7 — 2 4 0 4 <

「ハト」

やれやれ しばし休憩を取るか
海の上を飛び さすがに疲れた

ここはやたらと ニンゲンが多い
観察して 楽しむとしよう

ムムッ 誰だ貴様!?

食事を出さず 我輩に何をする気だ!?

こらこら 付いてくるな

妙なやつだな・・・ 我輩はもう行くからな

まったく 次の場所では
きちんと 食事がしたいものだ

> i 2 3 6 7 9 — 2 4 0 4 <

卯月の終わり（後書き）

写真では、まったく伝わりませんが
海風にブンブン揺られて、ポピ―を撮るのに手こずりました。
デジカメのバッテリーが切れて、予備いるなって
今更ながらに思いました。

皐月の異変

「君は誰？」

山と野原の中間で、ふと見つけたんだ。

静かに佇む君を。

決して美しいとは言わない。

むしろその姿には、不安を掻き立てられる。

君は誰？

今まで会った事なかったよね？

誰に聞いても、君の事は知らないって言うんだ。

後で調べても、君の事見つけられなかったんだ。

ねえ、君は誰なの？

ねえ、本当に何処から来たの？

>i23683—2404<

「ヒメオドリコソウ」

何だろう？ 不思議な姿

薄く淡い紫の モコモコとした妙なやつ？

ここにもいる あそこにも

あんなところにも

きゃー モコモコだらけー！

なんだお前 侵略者だな！？

スマレはどこだ？ 今まで生えてた他の花は何処に行った！？

$$\begin{array}{r} > \\ & i \\ & 2 \\ & 3 \\ & 6 \\ & 8 \\ & 2 \\ \hline & 2 \\ & 4 \\ & 0 \\ & 4 \\ < \end{array}$$

皐月の異変（後書き）

綺麗な花の写真じゃなくてすみません（^^；

本当に「君は誰？」です。

知ってる方、教えてください。

実家の側で見つけたんですが、ネットで探してみたのですが私には見つけられませんでした。

もう1つ。

本当に、実家の辺りはこの花に侵略されてました・・・私の記憶には無かった事態です。

外来種の猛威はすごいなって、素直に書いてみました。

水無月の空

時刻は夜の7時辺り。

普段の私はこの時間、必ず家にいるけれど、今日は特別用事があった、珍しく外にいた。

だから、普段と違う色の世界に思わず見とれてしまった。

・・・空が凄い。

>i27076—2404<

電車を待つ人には、何の変哲も無い景色なのかもしれない。

しかし、私は嬉しくて仕方がなくて、カバンからカメラを取り出した。

良さそうな景色を何度か収め、道の中程にある電停から、いくつかの好奇の視線を向けられた。

人の判別のつきにくい明るさの道を、右に曲がって西を向くと、空の色に更にときめく。

>i27077—2404<

電柱から何本も伸びる電線の影をアクセントにして、空を撮ってみた。

しかし、モニターで画像を確認してがっかりした。

この景色の凄さが、さっぱり取り込めていない。

>i27078—2404<

開けた場所で、天から伸びる光の階段も写したが、これも半分も収められなかった。

何度撮り直しても、満足出来るだけのものは撮れず、次第に光は弱くなり、あの感動は完全に、過去のものになり、また違った色が空を染めた。

留められない時間。

収められない美しさ。

伝えられない悔しさ。

つくづく私は無力だな・・・と、空を見ながら思った。
この事だけでなく、色々な所でそう思うのだ。

けど、そう浸ってもいられない。

・・・帰ってご飯を作らねば。
それでも頼りにしてくれてる子供達と旦那がいる。

うん、このまま拗ねてちやいかなよな。

どうせ旦那が先に帰ったって、ご飯の順番なんかしてくれないんだ。

そこに不満もあるけど、私の場所だ・・・と、思う事にしておう。

6月の暗くなった空の下で、ただの主婦はそう考えた。

水無月の空（後書き）

とても久しぶりで、今更水無月だったり、以前と雰囲気違いますが・
・・。

えーと、ご勘弁願います!!

文月の空

「気まぐれなアーティスト」

夏の真っ青な空に、大きく白いバツテンを見つけた。

飛行機が描いた ダイナミックでシンプルなアート。
やがて風に撫でられて、雲がゆっくり散らされてしまうまで、じっ
くりと目で味わう。

刻々と変わる、刹那の模様。

>i29886—2404<

「夜の花」

夜空に開く光の花と、その後に来る轟音と波動。

>i29890—2404<

視覚、聴覚、触覚と、全身で花火を楽しむ。

嗅覚と味覚は、傍の屋台に誘われる。

夏の祭りの夜に、大勢の人が同じ花火を見上げ、同時に歓声を上げ
る。

当たり前の出来事に、なんとなく感心してしまった。

皆が同じ方向を向いているなんて、すごい事だ。

>i29888—2404<

長月のトンボ

「秋の訪れ」

昼間はまだ夏のような暑さでも、夕方になると空気が違う。

しかも家の陰になる庭は、風でも吹けば少し冷える。

その風は前の山の枝を揺らし、枝の葉はさらさらと鳴る。

その音までもが違う気がして、秋なんだなあとしみじみとする。

> i 3 3 6 0 0 — 2 4 0 4 <

畑に植えられた夏の野菜は、盛りを過ぎてくたびれている。

不格好なキュウリ、傷のあるナス、まだ小さいのに赤く染まるトマト。

それは最期の足掻きだろうか？

それとも最期の意地だろうか？

でもそんな姿は、何となく格好良い。

やや先の枯れ始めた夏野菜の前を、トンボ達が軽快に飛び交う。

やはり、見えない季節のバトンは、確実に次に渡されている。

「赤、茶、青。」

> i 3 3 8 7 4 — 2 4 0 4 <

赤いトンボはなかなか可愛い。

小さくて、鮮やかな色。

＞i33875—2404＜

茶色いトンボ、大きな君は。
それにしても、その羽の角度疲れないかい？

＞i33876—2404＜

青い目の君……トンボだよね？
羽は二対あるけど、変わった形。

とりあえず、はじめまして。
観察させてくれるとうれしい……んだけど、残念、行っちゃった。

神無月の考察

＞i33603—2404＜

繁る季節はもう終わり

徐々に茶色く枯れていく葉に 潔さと強さを見た気がする

またいづれ芽を出すために 今年もまた自らに終止符を打つ
それは生きるための知恵

＞i33604—2404＜

黄色に染まる蔦はしたたかだ フェンスを利用し存在を示す

冬の寒さを生き抜くために 近いうちに葉だけでなく蔓も色を変える
そして枯れ落ち 切り離される

いや 枯れるではなく 枯らすだろうか？

物言わぬただの草？

実はそうでは無いのかもしれない

生きるため 栄えるために 工夫をしてそこに在る

考えるのは人の特権？

いや 植物の方が聡いかもしれない

神無月の考察（後書き）

8、9月もそのうち補完します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7149s/>

季詞

2011年11月12日00時43分発行